

I 展示活動

1 企画展

生誕 110 周年記念 山本丘人展—魂の抒情詩

- 会期** 平成22年4月24日(土)～5月30日(日)
- 主催等** 主催：茨城県天心記念五浦美術館
後援：NHK水戸放送局
協力：美術館夢呂士・山本丘人記念館
- ポスター** B2, B3
- チラシ** A4
- 図録** 215×215mm 115頁
編集・発行 アート・ベンチャー・オフィス ショウ
- 入場者数** 13,544人
- 観覧料** 一般600(500)円／高大生400(300)円
小中生200(150)円
※()内は20名以上の団体料金
- 出品点数** 61点(大下図含む)
- 内容解説**

山本丘人(1900-86)は東京生まれ、東京美術学校(現・東京藝術大学)在学中から、松岡映丘に師事し、卒業後は帝展・新文展に出品して活躍した。その後、東京美術学校助教授や女子美術専門学校(現・女子美術大学)教授、日展の審査員などを務めたが、昭和23年(1948)に旧態依然とした日本画壇に新風をおこすべく、創造美術(現在の創画会)を結成して日本画の改革に尽力する。また、昭和52年(1977)には文化勲章を受章し、さらに文化功労者としても顕彰されている。

丘人は大和絵調の表現を出発点としながらも、戦後は西洋モダニズムの絵画表現を取り入れた力強い山水画的表現を展開して評価を得るようになる。また、晩年にみられる抒情性にあふれ、繊細で色彩豊かな心象風景は、丘人芸術の大きな魅力となっている。

本展では、戦後日本画界に大きな足跡を残した丘人の帝展初入選作から絶筆まで61点の作品を展示し、その芸術の

真髄に迫るほか、人柄を偲ばせるアトリエにあった遺品などもあわせて紹介した。

- 担当** 永宮勤士(学芸員)
- 関連事業**

美術講演会「父丘人を語る—山本丘人芸術の魅力」
講師 山本由美子(美術館夢呂士・山本丘人記念館館長)
日時 平成22年5月8日(土)午後1時30分～午後2時30分
会場 講堂

学芸員によるギャラリートーク

担当 永宮勤士(学芸員)

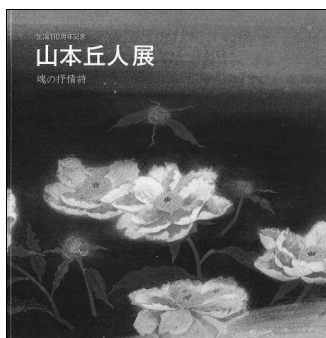
日時 5月15日(土)午後1時30分～午後2時30分

5月23日(日)午後1時30分～午後2時30分

会場 展示室A・B・C

- 関連記事**

- ・山本丘人の画業たどる
平成22年4月16日【読売新聞】
- ・山本丘人の画業を回顧
平成22年4月17日【朝日新聞】
- ・詩情豊かな日本画61点
平成22年4月24日【茨城新聞】
- ・山本丘人の絵画61点を展示
平成22年4月24日【毎日新聞】
- ・手軽に行けるカルチャードライブ 近県美術館・博物館だより 生誕110周年記念 山本丘人展—魂の抒情詩
平成22年4月24日【両毛新聞】
- ・日本画革新の旗手 軌跡紹介
平成22年5月9日【産経新聞】
- ・生誕110年、山本丘人展
平成22年5月10日【茨城新聞】
- ・山本丘人展—魂の抒情詩 上
震災後復興する都市「公園の初夏」(永宮勤士)
平成22年5月11日【茨城新聞】
- ・山本丘人展—魂の抒情詩 中
雪照らす浅間山表現「月夜の噴煙」(永宮勤士)
平成22年5月12日【茨城新聞】



図録



ポスター B2



ポスター B3



チラシ A4

- ・山本丘人展一魂の抒情詩 下
冬の藤棚の情景に想「地上風韻」(永宮勤士)
平成22年5月13日【茨城新聞】
- ・美の履歴書 155「地上風韻」山本丘人(小川雪)
平成22年5月19日【朝日新聞(夕刊)】
- ・生誕110周年記念 山本丘人展一魂の抒情詩
平成22年5月21日【新美術新聞】

●関連放送

- ・スクーピーレポート
平成22年4月28日【茨城放送】
- ・みんなの教育
平成22年5月1日【茨城放送】
- ・GOODY LUNCH
平成22年5月19日【FMいわき】

● 出品作品一覧

No.	作品名	制作年	材質・技法・形状	寸法(縦×横 cm)	初出展覧会	所蔵先
第一期 大正10年(1921)–昭和25年(1950)						
1	少女坐像	大正9年(1920)	絹本・着色・額装	139.9×65.3		美術館夢呂士・山本丘人記念館
2	婦女坐像(青梅)	大正11年(1922)	絹本・着色・額装	122.7×82.5		美術館夢呂士・山本丘人記念館
3	婦女坐像(青梅) 大下図	大正11年(1922)	紙本・鉛筆, コンテ, 色鉛筆・額装	124.5×76.0		美術館夢呂士・山本丘人記念館
4	公園の初夏	昭和3年(1928)	紙本・着色・額装 (屏風二曲一隻)	169.0×175.0	第9回帝展	美術館夢呂士・山本丘人記念館
5	河岸風景	昭和4年(1929)	紙本・着色・額装	68.0×80.0	新興大和絵会第9回展	美術館夢呂士・山本丘人記念館
6	不忍池	昭和5年(1930)	絹本・着色・額装	199.6×166.3	第11回帝展	美術館夢呂士・山本丘人記念館
7	不忍池 大下図	昭和5年(1930)	紙本・鉛筆, 色鉛筆・額装	199.6×166.3		美術館夢呂士・山本丘人記念館
8	青い海	昭和7年(1932)	絹本・着色・額装	211.0×137.0	第13回帝展	美術館夢呂士・山本丘人記念館
9	青い海 大下図	昭和7年(1932)	紙本・鉛筆, 色鉛筆・額装	211.0×137.0		美術館夢呂士・山本丘人記念館
10	海の微風	昭和11年(1936)	絹本・着色・額装	173.6×180.6	新文展鑑査展	豊田市美術館
11	庭園	昭和13年(1938)	絹本・着色・額装	203×151.5	第2回新文展	水野美術館
12	春庭	昭和15年(1940)	絹本・着色・額装	54.0×41.5	綵尚会第2回展	箱根・芦ノ湖 成川美術館
13	土	昭和16年(1941)	絹本・着色・軸装	128.0×42.1	綵尚会第3回展	箱根・芦ノ湖 成川美術館
14	空	昭和16年(1941)	絹本・着色・軸装	128.0×42.1	綵尚会第3回展	箱根・芦ノ湖 成川美術館
15	田舎道	昭和19年(1944)	絹本・着色・額装	58.9×52.0	山本丘人個人展覧会	個人
16	月夜	昭和19年(1944)	絹本・着色・額装	47.3×58.5	山本丘人個人展覧会	個人
17	月の出	昭和20年頃(c.1945)	絹本・着色・軸装	48.0×72.1		箱根・芦ノ湖 成川美術館
18	望流	昭和21年(1946)	絹本・着色・軸装	144.4×71.9	第2回日展	青梅市立美術館
19	草上の秋	昭和24年(1949)	紙本・着色・屏風四曲一隻	161.7×258.8	第2回創造美術展	横須賀美術館
第二期 昭和26年(1951)–昭和41年(1966)						
20	湖上嶺(山湖嶺)	昭和26年(1951)	絹本・着色・屏風六曲一隻	167.5×369.0	第15回新制作展	新潟県立近代美術館・万代島美術館
21	潮	昭和29年(1954)	絹本・着色・額装	90.9×60.6	薔薇会六人展	個人
22	月下双滝	昭和32年(1957)	絹本・着色・額装	66.5×56.0	山本丘人個展	箱根・芦ノ湖 成川美術館
23	岩壁	昭和33年(1958)	紙本・着色・額装	90.5×60.3	日本野生会第1回展	(株)サイトウミート
24	晩照の滝	昭和36年(1961)	絹本・着色・額装	71.5×51.7	孔雀会第4回展	個人
25	月夜の噴煙	昭和37年(1962)	絹本・着色・額装	168.8×174.0	第26回新制作展	福島県立美術館
26	満月夜	昭和38年(1963)	絹本・着色・額装	91.0×58.0	新制作日本画部春季展	箱根・芦ノ湖 成川美術館
27	雲のある山河	昭和39年(1964)	絹本・着色・屏風六曲一隻	168.5×372.0	第28回新制作展	箱根・芦ノ湖 成川美術館
28	湖上の雪	昭和39年(1964)	紙本・着色・額装	66.0×54.0	五山会第2回展	箱根・芦ノ湖 成川美術館
29	晩松	昭和40年(1965)	紙本・着色・額装	61.0×45.0	令月会第6回展	個人
30	海巖	昭和40年(1965)	紙本・着色・額装	116.7×90.9	樗会第1回展	箱根・芦ノ湖 成川美術館
31	寂瀑	昭和41年(1966)	紙本・着色・額装	72.7×60.6	杼栗会66年展	小川美術館

No.	作品名	制作年	材質・技法・形状	寸法(縦×横 cm)	初出展覧会	所蔵先
第三期 昭和42年(1967)–昭和59年(1984)						
32	来り去る時雨	昭和42年(1967)	絹本・着色・額装	153.5×122.0	第31回新制作展	個人
33	夕陽	昭和43年(1968)	紙本・着色・額装	45.5×60.8		佐久市立近代美術館
34	濤と華	昭和45年(1970)	紙本・着色・額装	55.0×100.7	新制作日本画部春季展	箱根・芦ノ湖 成川美術館
35	春の雪	昭和46年(1971)	紙本・着色・額装	37.8×60.9	令月会第12回展	個人
36	鳥と風月	昭和47年(1972)	紙本・着色・額装 (屏風四曲一隻)	131.0×231.7	第36回新制作展	箱根・芦ノ湖 成川美術館
37	葉かげの陽	昭和47年(1972)	紙本・着色・額装	55.3×85.4	樗会第2回展	箱根・芦ノ湖 成川美術館
38	寒の花	昭和47年(1972)	紙本・着色・額装	41.5×61.3	五山会第7回展	箱根・芦ノ湖 成川美術館
39	待春	昭和48年(1973)	紙本・着色・額装	41.5×53.5		個人
40	歳月の影	昭和48年(1973)	紙本・着色・額装	73.5×61.5	新制作日本画部春季展	個人
41	月光の宵	昭和49年(1974)	紙本・着色・額装	46.0×61.0		小川美術館
42	路上の天使	昭和50年(1975)	紙本・着色・額装 (屏風二曲一隻)	100.0×136.0	第2回遊星展	箱根・芦ノ湖 成川美術館
43	往く路	昭和50年(1975)	紙本・着色・額装	91.5×64.0	第1回春季創画展	箱根・芦ノ湖 成川美術館
44	漂壁	昭和51年(1976)	紙本・着色・額装 (屏風二曲一隻)	88.5×127.8	第3回遊星展	箱根・芦ノ湖 成川美術館
45	風竹	昭和51年(1976)	紙本・着色・大团扇	33.5×35		高島屋史料館
46	冬駆る	昭和52年(1977)	紙本・着色・額装	33.7×53.3		佐久市立近代美術館
47	夏渡る時	昭和54年(1979)	紙本・着色・額装 (屏風六曲一隻)	130.0×274.0	第6回創画展	美術館夢呂土・山本丘人記念館
48	銀色の歲月	昭和55年(1980)	紙本・着色・額装	84.0×152.0	第7回創画展	箱根・芦ノ湖 成川美術館
49	月明	昭和55年(1980)	紙本・着色・額装	33.5×45.7		佐久市立近代美術館
50	漂泊の風日	昭和55年(1980)	紙本・着色・額装	50.0×72.7	山本丘人私画展	箱根・芦ノ湖 成川美術館
51	雪月夜	昭和56年(1981)	紙本・着色・額装 (屏風四曲一隻)	133.0×230.0	第8回創画展	美術館夢呂土・山本丘人記念館
52	仔犬と菜の花	昭和57年(1982)	紙本・着色・額装	38.3×45.8		佐久市立近代美術館
53	風立ちぬ	昭和57年(1982)	紙本・着色・額装	84.0×153.0	第9回創画展	個人
54	海道の径	昭和59年(1984)	紙本・着色・額装	145.4×97.0	第11回創画展	個人
55	絶筆・未完	昭和58~60年 (1983~85)	紙本・着色・額装 (屏風四曲一隻)	84.0×153.0		個人
56	雨季	不詳	絹本・着色・額装	42.0×55.5		高島屋史料館
57	流水のうた	昭和48年(1973)	紙本・着色・額装	176×145.5	第37回新制作展	東京都現代美術館
58	天上月華	昭和49年(1974)	紙本・着色・額装	92.7×62.4	第3回高山辰雄、山本丘人、杉山寧新作展	箱根・芦ノ湖 成川美術館
59	地上風韻	昭和50年(1975)	紙本・着色・額装 (屏風四曲一隻)	136.5×231.5	第2回創画展	箱根・芦ノ湖 成川美術館
60	木蔭の路	昭和50年(1975)	紙本・着色・額装	61.0×50.5		箱根・芦ノ湖 成川美術館
61	舊い軌跡	昭和52年(1977)	絹本・着色・額装	85.0×66.9	第4回遊星展	箱根・芦ノ湖 成川美術館
62	季節風	昭和52年(1977)	紙本・着色・軸装 (四幅対)	各126.5×60.7	第4回創画展	箱根・芦ノ湖 成川美術館
63	幻雪	昭和53年(1978)	紙本・着色・屏風六曲一隻	130.0×273.0	第5回創画展	愛知県美術館
64	山河望郷	昭和58年(1983)	紙本・着色・額装	46.0×92.0	第10回遊星展	箱根・芦ノ湖 成川美術館

※作品No. 10は静岡展, No. 21, 53は東京展のみに出品され, 当館では展示しなかった。

いのちのかがやき— 花鳥画の現在^{いま}

- 会期 平成22年7月10日(土)～8月29日(日)
- 主催等 主催：茨城県天心記念五浦美術館
後援：NHK水戸放送局
- ポスター B2, B3
- チラシ A4
- 図録 250×260mm 74頁
編集・発行 茨城県天心記念五浦美術館
- 入場者数 15,899人
- 観覧料 一般600(500)円／高大生400(300)円
小中生200(150)円
※()内は20名以上の団体料金
- 出品点数 日本画44点
- 内容解説

日本画の伝統的なテーマの一つ「花鳥画」は、四季折々の花や鳥などを描いたもので、写実のみならず写意的あるいは装飾的に表現しながら、生命を感じさせる優れた造形性を示してきた。現代では、このような伝統性を踏まえながらもより清新で個性豊かな表現が生み出され、一方、画家がその内面をモチーフに託した作品や新たな技法によるエネルギッシュな表現など、「花鳥画」という枠はこれまで以上に広がっている。

この展覧会では、現在、独自の花鳥表現を展開している画家による多彩な芸術を通して、その現代的な新しい表現と、それでもなお底流している伝統性を浮き彫りにしながら、生き物への温かな眼差しや画面にあふれる生命力など、現在もなお変わらない「花鳥画」の魅力をもつ19作家44点の作品により紹介した。

- 担当 中田智則(主任学芸員)

●関連イベント

親子ワークショップ「つくる・かざる 金魚モビール—出品作家とコラボしよう！」

講師 神戸智行(日本画家)

日時 7月31日(土) 午後1時30分～午後3時30分
8月1日(日) 午前10時～午前12時
午後1時30分～午後3時30分

会場 講座室

公開制作「ライブペインティング

—日本画家・福井江太郎 墨で描く」

制作者 福井江太郎(日本画家)

日時 7月19日(月・祝) 午後2時～午後3時

会場 エントランスロビー

協賛 株式会社 伊勢甚本社

学芸員によるギャラリートーク

担当 中田智則(主任学芸員)

日時 7月25日(日) 午後1時30分～午後2時30分
8月21日(土) 午後1時30分～午後2時30分

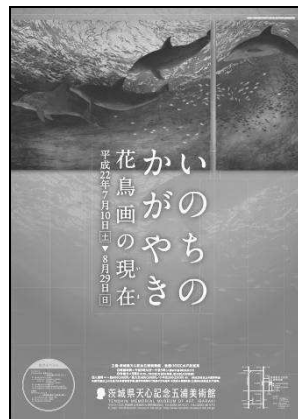
会場 展示室A・B・C

●関連記事

- ・画家19人の花鳥画展 五浦美術館きょう開幕
平成22年7月10日【茨城新聞】
- ・楽しく華やかに現代の花鳥画展
平成22年7月15日【朝日新聞】
- ・手軽に行けるカルチャードライブ 近県美術館・博物館
だより いのちのかがやき—花鳥画の現在
平成22年7月16日【両毛新聞】
- ・五浦美術館で日本画家が公開制作
平成22年7月20日【朝日新聞】
- ・県天心記念美術館で花鳥画の企画展
平成22年7月27日【毎日新聞】
- ・清新な大作44点 日本画19人(末武奏子)
平成22年7月28日【茨城新聞】
- ・福井さん迫力の実演 観衆前に墨でダチョウ画
平成22年7月28日【茨城新聞】
- ・いのちのかがやき=1= 水面に神の存在を暗示「黒潮」
西野陽一(中田智則)
平成22年7月30日【茨城新聞】



図録



ポスター B2



ポスター B3



チラシ A4

- ・いのちのかがやき=2= 和紙を重ね水に奥行き「星に願いを」神戸智行(中田智則)
平成22年7月31日【茨城新聞】
- ・いのちのかがやき=3= 構図や色彩で新たな命「阿I」福井江太郎(中田智則)
平成22年8月2日【茨城新聞】
- ・いのちのかがやき=4= 濃淡表現で幻想的空間「ウツロイ」植田一穂(中田智則)
平成22年8月3日【茨城新聞】
- ・いのちのかがやき=5= 重圧はねのけ命の賛歌「大気を食らう」長沢 明(中田智則)
平成22年8月4日【茨城新聞】

- ・レポート墨 いのちのかがやき 花鳥画の現在
【趣味の水墨画 平成22年10月号】
 - ・この1年 美術 2010年の展覧会3選(本江邦夫)
平成22年12月20日【毎日新聞(夕刊)】
- 関連放送
- ・みんなの教育
平成22年7月10日【茨城放送】
 - ・スクーパーレポート
平成22年7月16日【茨城放送】
 - ・おもしろ美術館
平成22年8月6日【FMいわき】

● 出品作品一覧

No	作者名	作品タイトル	制作年	材質・技法	形状	大きさ(cm)	初出展覧会	所蔵家
I 写実の系譜								
1	竹内浩一	ふうせい 風姿	平成4	紙本・彩色	額装(2面)	各140×106	第45回晨鳥社展	作家
2	竹内浩一	降	平成12	紙本・彩色	額装	230×180	第32回日展	新潟県立近代美術館・万代島美術館
3	竹内浩一	ぶどうに雨	平成13	紙本・彩色	額装	183.5×226.2	第33回日展	新潟県立近代美術館・万代島美術館
4	竹内浩一	しなる	平成20	紙本・彩色	額装	184×227	第40回日展	作家
5	田淵俊夫	めだけ	平成19	紙本・墨彩	四曲一隻屏風	171.4×364	再興第92回院展	個人
6	田淵俊夫	すすき	平成20	紙本・墨彩	四曲一隻屏風	171.4×364	再興第93回院展	個人
7	林 潤一	けし 罌粟花(春)	平成10	紙本・彩色	額装	230×125	第1回NEXT展	新潟県立近代美術館・万代島美術館
8	林 潤一	山百合(夏)	平成10	紙本・彩色	額装	230×125	第1回NEXT展	新潟県立近代美術館・万代島美術館
9	林 潤一	けいがんか 鶏冠花(秋)	平成10	紙本・彩色	額装	230×125	第1回NEXT展	新潟県立近代美術館・万代島美術館
10	林 潤一	冬牡丹(冬)	平成11	紙本・彩色	額装	230×125	林潤一日本画展(日本橋三越)	新潟県立近代美術館・万代島美術館
11	林 潤一	秋草(I)	平成21	麻紙・岩彩, 金箔	額装	168×169	第14回目展	個人
12	西野陽一	竜宮I	平成9	紙本・彩色	四曲一双屏風	各180×340	竜宮'97 西野陽一展	東京オペラシティアートギャラリー
13	西野陽一	黒潮	平成10	紙本・彩色	額装	193.9×519.7	第1回NEXT展	個人(今治市大三島美術館寄託)
14	西野陽一	生命の樹	平成18	紙本・彩色	額装	181.8×227.3	密林行 西野陽一展	東京オペラシティアートギャラリー
15	西野陽一	森の子	平成18	紙本・彩色	額装	170×90	密林行 西野陽一展	個人
16	神戸智行	彩れる水面— 紅色のシンフ オニー	平成15	雲肌麻紙, 典具 帖紙・岩絵具, 箔, 膠	四曲一隻屏風	140×320	個展(ギャラリー青羅)	作家(高崎市タワー美術館寄託)
17	神戸智行	陽のあたる場 所	平成18	雲肌麻紙, 典具 帖紙・岩絵具, 箔, 膠	四曲一隻屏風	140×320	神戸智行展 イノセント・ワールド	作家(高崎市タワー美術館寄託)
18	神戸智行	いつもの時間	平成22	雲肌麻紙, 典具 帖紙・岩絵具, 箔, 膠	四曲一隻屏風	157.5×256	いのちのかがやき—花鳥画の現在	作家
19	神戸智行	星に願いを	平成22	雲肌麻紙, 典具 帖紙・岩絵具, 箔, 水草, 膠	パネル	190×320	いのちのかがやき—花鳥画の現在	作家
20	坂本藍子	森の幻影	平成20	高知麻紙・岩絵具, 水干絵具	パネル	135×227.5	個展(横浜そごう, 2009)	松山正美氏

No	作者名	作品タイトル	制作年	材質・技法	形状	大きさ(cm)	初出展覧会	所蔵家
II 装飾性と様式化								
21	平松礼二	路一桔梗ヶ原	平成5	紙本・彩色	四曲一双屏風	各 170×340		箱根・芦ノ湖 成川美術館
22	平松礼二	モネの池・秋冬 図	平成13	麻紙・岩絵具	額装	162.1×227.3	個展「ジャポニスムⅡ 睡蓮」	個人
23	平松礼二	モネの池に桜	平成14	麻紙・岩絵具	額装	112.1×162.1	個展「ジャポニスムⅡ 睡蓮」	天笠悦藏氏
24	中島千波	樹霊淡墨櫻	平成5	紙本・彩色	四曲一隻屏風	175×340	第16回中島千波・林功・ 松本哲男三人展	おぶせミュージアム・ 中島千波館
25	中島千波	南の夜の虹	平成20	紙本・彩色	額装	84.9×130.3	個展「花がたりーおもち やしりーズー」	おぶせミュージアム・ 中島千波館
26	中島千波	動物の謝肉祭	平成20	紙本・彩色	額装	130.3×84.9	個展「花がたりーおもち やしりーズー」	おぶせミュージアム・ 中島千波館
27	河嶋淳司	親子象	平成18	麻紙・岩絵具, プラチナ箔	額装	162×130	第17回両洋の眼展	個人
28	河嶋淳司	遊憩耽耽図	平成19	雲肌麻紙・岩 絵具, 水干絵 具, 墨, 金箔	四曲一双屏風	各 172×340	河嶋淳司展 Leopard— 豹—	個人
29	福井江太郎	阿I	平成15	紙本・墨, 蜜 蠟, 彩色	パネル	243×90×9面	福井江太郎展(東邦ア ート)	文化庁
30	福井江太郎	路一尾形光琳へ のオマージュ	平成21	紙本・金地, 彩 色	四曲一双屏風	各 168×332	福井江太郎展「花」	個人
III 花鳥画を超えて								
31	中野嘉之	生命の讃歌— 遊魚	平成10	絹本・彩色, 金 箔, 墨	四曲一隻屏風	151×247	第3回目展	個人
32	岡村桂三郎	一身四頭象 05-1	平成17	板・岩絵具	パネル	235×680×9	個展「岡村桂三郎展」 (コバヤシ画廊)	高橋コレクション
33	植田一穂	ウソロイ	平成21	紙本・彩色	パネル	181.8×227.3	第36回創画展	個人
34	植田一穂	こぶし 辛夷	平成21	紙本・彩色	パネル	116.7×116.7	植田一穂展(ギャラリー 広田美術)	個人
35	植田一穂	山茶花	平成22	紙本・彩色	パネル	116.7×116.7	第36回春季創画展	個人
36	新恵美佐子	花-1	平成17	綿布・顔料, 墨, アクリル絵具	額装	227×363	ポーラ新鋭展2005	個人
37	浅見貴子	Matsu 20	平成17	白麻紙・墨, 胡 粉, 樹脂膠	パネル	250×340	浅見貴子展(目黒区美 術館区民ギャラリー)	作家
38	浅見貴子	柿の木3	平成21	麻紙・墨, 胡粉, 膠, 樹脂膠	パネル	265×203	DOMANI・明日展2009	作家
39	菅原さちよ	たまゆらの 玉響	平成21	絹本・墨, 岩絵 具, 金箔	八曲一隻屏風	116.6×420	第7回個展(なか玄ア ート)	作家
40	西嶋豊彦	空に遊ぶ	平成19	紙本・彩色	四曲一双屏風	各 168×368	第10回NEXT展	個人
41	長沢 明	トラとワナⅢ	平成15	パネル, 寒冷紗・ 土, 石膏, 岩絵 具	パネル	201×150	個展(ギャラリーヒラフタ)	文化庁
42	長沢 明	大気を食らう	平成22	パネル, 寒冷紗・ 土, 石膏, 岩絵 具	パネル	300×276	特別展「日本画」の現在	個人
43	岩田壮平	My Garden	平成21	雲肌麻紙・膠, 岩 絵具, 雲母	二曲一隻屏風	196×224	こころの花展(ギャラ ー桜の木)	個人
44	岩田壮平	HANA / 図	平成22	絹本・金地, 膠, 岩絵具	六曲一隻屏風	168×372	渺渺展2010	個人

没後 30 年
堅山南風展

●会期 平成22年10月16日(土)～11月28日(日)

●主催等 主催：茨城県天心記念五浦美術館

後援：NHK水戸放送局

●ポスター B2, B3

●チラシ A4

●図録 280×225mm 128頁

編集・発行 茨城県天心記念五浦美術館

●入場者数 19,125人

●観覧料 一般600(500)円／高大生400(300)円

小中生200(150)円

※()内は20名以上の団体料金

●出品点数 日本画60点、下図2点、素描72点

●内容解説

明治20年(1887)熊本に生まれた堅山南風は、大正2年(1913)第7回文展に出品した「霜月頃」が横山大観の推薦により二等賞を受賞したのを機に大観を師と仰ぎ、翌年より大観らが再興した日本美術院に参加した。13年に同院同人となった南風は、写生を基にしながら草花や魚を題材にした作品を発表するが、戦後はこうした花鳥画に加え、モダンな静物画や円熟味ある肖像画に新たな画境を拓き、昭和33年(1958)に日本芸術院会員、38年に文化功労者となり、43年には文化勲章を受章するなど、55年(1980)に93歳で亡くなるまで日本画壇の中心的存在として活躍した。

また日光の「鳴龍」や日光・中禅寺(立木観音)の「瑞龍」をはじめ、寺社の壁画や天井画を多く手がけたのも南風の大きな業績の一つといえる。

本展では没後30年を機に、初期から晩年に至る日本画作品60点を中心に、「鳴龍」小下図、幅14mにも及ぶ迫力ある「瑞龍」大下図やスケッチなども多数展示し、その画業を回顧するとともに、豊かな色彩感覚によりすがすがしく大らかな画風を展開した南風芸術の魅力を紹介した。

●担当 稲葉睦子(主任学芸員)

●関連事業

学芸員によるギャラリートーク

担当 稲葉睦子(主任学芸員)

日時 10月23日(土)午後1時30分～午後2時30分

11月14日(日)午後1時30分～午後2時30分

会場 展示室A・B・C

●関連記事

- ・大迫力の天井画「堅山南風展」きょう開幕
平成22年10月16日【茨城新聞】
- ・日光の「鳴龍」下絵など134点を展示
平成22年10月23日【毎日新聞】
- ・横山大観の弟子 堅山南風 多彩な画風紹介
平成22年10月23日【朝日新聞】
- ・没後30年 画業を回顧
平成22年10月24日【下野新聞】
- ・多彩な画境134点 没後30年、堅山南風展
平成22年10月25日【茨城新聞】
- ・日本美術院の精神解説 松尾理事長が講演
平成22年10月25日【茨城新聞】
- ・没後30年堅山南風展〈上〉
「白雨」目を引く色彩、透明感(稲葉睦子)
平成22年11月9日【茨城新聞】
- ・没後30年堅山南風展〈中〉
「横山大観先生」威厳見事に描き切る(稲葉睦子)
平成22年11月10日【茨城新聞】
- ・没後30年堅山南風展〈下〉
「瑞龍 大下図」雄渾な筆の冴え存分(稲葉睦子)
平成22年11月11日【茨城新聞】
- ・堅山南風展 自由な精神で描き続けた南風芸術の魅力(稲葉睦子)
平成22年11月11日【新美術新聞】

●関連放送

- ・みんなの教育
平成22年10月16日【茨城放送】
- ・スクーパーレポート
平成22年10月19日【茨城放送】
- ・おもしろ美術館
平成22年11月5日【FMいわき】
- ・ニュース
平成22年11月26日【NHKデジタル】



図録



ポスター B2



ポスター B3



チラシ A4

● 出品作品一覧

No.	作品名	制作年	材質・技法・形状	寸法(縦×横 cm)	初出展覧会	所蔵先
1	飛雁行を見る	明治43年(1910)	絹本・彩色・屏風二曲一隻	154.7×114.0		個人
2	清正公	明治45年頃(c.1912)	絹本・彩色・軸装	130.0×49.8		個人
3	日和つづき	大正3年(1914)	紙本・彩色・屏風六曲一双	各181.7×363.8	再興第1回院展	福岡市美術館
4	江ノ島海岸風景	大正3年(1914)	紙本・彩色・屏風二曲一双	各169.0×186.0		横浜美術館
5	来迎	大正5年(1916)	絹本・彩色・軸装(三幅)	左右各195.0×57.0 中195.0×117.3	再興第3回院展	熊本県立美術館
6	熱国の夕べ	大正6年(1917)	絹本・彩色・屏風八曲一隻	168.0×482.0	再興第4回院展	個人
7	ダリア	大正8年(1919)	絹本・彩色・屏風六曲一隻	196.7×418.5		個人
8	寝美人	大正8年(1919)	絹本・彩色・額装	116.8×173.5		個人
9	梅花遊禽	大正14年(1925)	紙本・彩色・屏風六曲一双	各172.2×361.5	再興第12回院展	個人
10	鮒 魚楽図ノ内其一	大正15年(1926)	紙本・墨画淡彩・軸装(五幅の内)	71.3×91.6	再興第13回院展	横浜美術館
11	朱ビンタ 魚楽図ノ内其二	大正15年(1926)	紙本・墨画淡彩・軸装(五幅の内)	71.6×92.5	再興第13回院展	横浜美術館
12	蜻蜓 魚楽図ノ内其三	大正15年(1926)	紙本・彩色・軸装(五幅の内)	71.3×93.1	再興第13回院展	横浜美術館
13	イダ 魚楽図ノ内其四	大正15年(1926)	紙本・墨画淡彩・軸装(五幅の内)	71.7×92.2	再興第13回院展	横浜美術館
14	鱒魚 魚楽図ノ内其五	大正15年(1926)	紙本・墨画淡彩・軸装(五幅の内)	72.3×93.3	再興第13回院展	横浜美術館
15	楓	昭和3年(1928)	絹本・彩色・軸装	133.5×51.0		個人
16	銷夏帖(朝顔)	昭和4年(1929)	紙本・彩色・額装	89.0×119.3	再興第16回院展	滋賀県立近代美術館
17	銷夏帖(秋草)	昭和4年(1929)	紙本・彩色・額装	90.0×119.5	再興第16回院展	松岡美術館
18	泉水	昭和6年(1931)	絹本・彩色・軸装(対幅)	各142.8×81.5		宮崎県立美術館
19	日午	昭和10年(1935)	紙本・彩色・額装	77.0×94.0	第19回日本美術院 試作展覧会	横須賀美術館
20	鯉	昭和初期	絹本・墨画淡彩・軸装	127.2×41.5		個人
21	清流	昭和初期	絹本・彩色・軸装	121.0×26.8		個人
22	霜日	昭和初期	絹本・彩色・軸装	168.5×56.5		個人
23	梅花叭々鳥	昭和初期	絹本・彩色・軸装	129.5×41.6		個人
24	雨後	昭和13年(1938)	絹本・墨画淡彩・額装	118.0×133.0	第2回新文展	個人
25	千里壮心	昭和14年(1939)	紙本・彩色・屏風六曲一双の内 右隻	163.0×364.0	再興第26回院展	個人
26	新涼	昭和16年(1941)	紙本・彩色・屏風六曲一双の内 右隻	169.0×375.0	再興第28回院展	個人
27	八朔	昭和21年(1946)	紙本・彩色・屏風二曲一隻	147.4×169.0	再興第31回院展	個人
28	新涼雅品	昭和25年(1950)	紙本・彩色・額装	98.0×129.0	再興第35回院展	宮崎県立美術館
29	白雨	昭和26年(1951)	紙本・彩色・額装	173.5×143.5	再興第36回院展	東京国立近代美術館
30	睡蓮	昭和28年(1953)	紙本・彩色・額装	169.3×142.8	再興第38回院展	個人
31	雨霽	昭和29年(1954)	紙本・彩色・額装	182.5×144.5	第10回日展	熊本市立壺川小学校
32	O氏像	昭和29年(1954)	紙本・彩色・額装	117.6×82.6		福井県立美術館
33	花更紗	昭和30年(1955)	紙本・彩色・額装	108.0×71.5	第11回日展	個人
34	虹鱒	昭和31年(1956)	紙本・彩色・額装	152.5×137.8	再興第41回院展	熊本県
35	日午	昭和31年(1956)	紙本・彩色・額装	170.0×148.5	第12回日展	個人
36	横山大観先生	昭和32年(1957)	紙本・彩色・軸装	120.4×79.5	再興第42回院展	横山大観記念館
37	応接間の人	昭和33年(1958)	紙本・彩色・額装	119.5×75.3	再興第43回院展	東京国立近代美術館
38	静子夫人	昭和35年(1960)	紙本・彩色・軸装	119.3×78.0	再興第45回院展	横山大観記念館
39	肥後椿	昭和38年(1963)	紙本・彩色・額装	149.2×182.0	再興第48回院展	熊本県
40	K先生	昭和38年(1963)	紙本・彩色・額装	120.5×79.0	再興第48回院展	東京国立近代美術館
41	朝の月	昭和43年(1968)	紙本・彩色・額装	181.5×151.5	再興第53回院展	水野美術館

No.	作品名	制作年	材質・技法・形状	寸法(縦×横 cm)	初出展覧会	所蔵先
42	新涼の客	昭和44年(1969)	紙本・彩色・額装	127.0×96.5	再興第54回院展	福岡市美術館
43	雅日	昭和45年(1970)	紙本・彩色・額装	121.6×91.0	再興第55回院展	福岡市美術館
44	更紗の中から	昭和46年(1971)	紙本・彩色・額装	109.0×136.5	再興第56回院展	個人
45	黄昏	昭和47年(1972)	紙本・彩色・額装	151.0×136.0	再興第57回院展	熊本市
46	野によぶ	昭和48年(1973)	紙本・彩色・額装	121.5×152.0	再興第58回院展	個人
47	春の雪	昭和49年(1974)	紙本・彩色・額装	136.5×108.0	再興第59回院展	福井県立美術館
48	日本の四季～冬 寒嘯	昭和49年(1974)	紙本・彩色・額装	50.3×61.5		個人
49	ボラボラ島にて	昭和50年(1975)	紙本・彩色・額装	121.0×151.3	再興第60回院展	個人
50	椰子と踊子	昭和50年(1975)	紙本・彩色・額装	147.2×116.1	再興第60回院展	個人
51	花壺	昭和50年(1975)	紙本・彩色・額装	63.0×73.0		日立市郷土博物館
52	曙	昭和51年(1976)	紙本・彩色・額装	67.5×57.0		個人
53	追おく	昭和52年(1977)	紙本・彩色・額装	166.3×90.7	再興第62回院展	福井県立美術館
54	肥後椿	昭和52年(1977)	紙本・彩色・額装	92.5×73.5		個人
55	梅花富士	昭和53年(1978)	紙本・彩色・額装	52.7×45.2		個人
56	双鯉	昭和53年(1978)	紙本・彩色・額装	45.5×53.0		個人
57	朧	昭和53年(1978)	紙本・彩色・額装	45.5×53.0		個人
58	瓶花	昭和54年(1979)	紙本・彩色・額装	72.7×60.6	第34回春の院展	個人
59	イコン礼讃	昭和55年(1980)	紙本・彩色・額装	177.5×97.0	再興第65回院展	個人
60	清香富士	昭和55年(1980)	紙本・彩色・額装	27.0×24.0	第36回春の院展	個人

No.	作品名	制作年	材質・技法・形状	寸法(縦×横 cm)	所蔵先
-----	-----	-----	----------	------------	-----

下図

下図-1	鳴龍 小下図	昭和40年(1965)	紙本・墨画彩色	27.0×75.6	個人
下図-2	瑞龍 大下図	昭和42年(1967)	紙本・墨画	554.0×1433.0	熊本市

素描

素描-1	シンガポールの村落	大正5年(1916)	紙本・彩色	23.9×30.4	個人
素描-2	ダージリン付近	大正5年(1916)	紙本・彩色	26.5×34.0	個人
素描-3	ダージリンより望むヒマラヤ	大正5年(1916)	紙本・彩色	27.5×31.5	個人
素描-4	ダージリンより望むエベレスト	大正5年(1916)	紙本・彩色	17.5×27.2	個人
素描-5	カルカッタ付近	大正5年(1916)	紙本・彩色	35.5×27.5	個人
素描-6	カルカッタ, ロアサキュラロードにてパニヤンツリーの下に憩う女性	大正5～6年(1916-17)	紙本・彩色	35.1×46.2	個人
素描-7	カルカッタ, ロアサキュラロードにて水たばこを吸う男性	大正5～6年(1916-17)	紙本・彩色	16.8×24.2	個人
素描-8	カルカッタ郊外	大正5～6年(1916-17)	紙本・彩色	26.5×36.5	個人
素描-9	カルカッタ市内の回教寺院	大正5～6年(1916-17)	紙本・彩色	19.2×27.5	個人
素描-10	人物	大正5～6年(1916-17)	紙本・彩色	20.4×25.8	個人
素描-11	人物	大正5～6年(1916-17)	紙本・彩色	20.0×25.0	個人
素描-12	人物群像	大正5～6年(1916-17)	紙本・彩色	20.5×25.2	個人
素描-13	腰掛ける人物	大正5～6年(1916-17)	紙本・彩色	20.5×25.5	個人
素描-14	インド村落	大正5～6年(1916-17)	紙本・彩色	17.0×19.2	個人
素描-15	インド村落	大正5～6年(1916-17)	紙本・彩色	27.5×17.5	個人
素描-16	インド村落	大正5～6年(1916-17)	紙本・彩色	25.0×35.5	個人
素描-17	カルカッタ郊外	大正5～6年(1916-17)	紙本・彩色	26.5×32.7	個人
素描-18	カルカッタ郊外	大正5～6年(1916-17)	紙本・彩色	26.5×34.0	個人
素描-19	帆船のある風景	大正5～6年(1916-17)	紙本・彩色	20.0×28.0	個人
素描-20	ビルマ村落	大正5～6年(1916-17)	紙本・彩色	24.6×33.5	個人
素描-21	船をこぐ人	大正5～6年(1916-17)	紙本・彩色	20.0×14.0	個人
素描-22	インド村落	大正5～6年(1916-17)	紙本・彩色	14.0×20.0	個人
素描-23	ガンジス河畔にて	大正5～6年(1916-17)	紙本・彩色	19.2×27.5	個人
素描-24	ペナン港所見	大正5～6年(1916-17)	紙本・彩色	20.0×28.0	個人
素描-25	シンガポール海岸所見	大正5～6年(1916-17)	紙本・彩色	23.8×32.7	個人
素描-26	シンガポールの泊船	大正5～6年(1916-17)	紙本・彩色	24.8×33.2	個人
素描-27	シンガポール所見	大正5～6年(1916-17)	紙本・彩色	25.0×33.7	個人

No.	作品名	制作年	材質・技法・形状	寸法(縦×横 cm)	所蔵先
素描-28	インドスケッチブック(人物風俗)	大正5～6年(1916-17)	紙本・彩色・画帖	35.2×27.6	個人
素描-29	インドスケッチブック(彫刻模写)	大正5～6年(1916-17)	紙本・鉛筆・画帖	35.2×27.6	個人
素描-30	アソカの花(無憂樹の花)	大正5～6年(1916-17)	紙本・彩色	25.0×20.0	個人
素描-31	アグラにて	大正6年(1917)	紙本・彩色	25.5×41.0	個人
素描-32	キセキレイ	大正15年(1926)	紙本・彩色	25.0×34.0	個人
素描-33	マス	大正～昭和前期	紙本・彩色	18.0×27.8	個人
素描-34	アユ	大正～昭和前期	紙本・彩色	18.0×27.5	個人
素描-35	カジカ	大正～昭和前期	紙本・彩色	15.0×22.5	個人
素描-36	ヤマメ	大正～昭和前期	紙本・彩色	14.5×22.5	個人
素描-37	ハヤ	大正～昭和前期	紙本・彩色	18.0×28.0	個人
素描-38	草魚	大正～昭和前期	紙本・彩色	16.0×25.5	個人
素描-39	コノハズク	大正～昭和前期	紙本・彩色	18.5×13.8	個人
素描-40	チドリ	大正～昭和前期	紙本・墨	17.2×25.0	個人
素描-41	チドリ	大正～昭和前期	紙本・墨	25.0×17.2	個人
素描-42	赤トンボ	大正～昭和前期	紙本・鉛筆, 淡彩	24.0×15.5	個人
素描-43	シヨウリョウバッタ	大正～昭和前期	紙本・彩色	17.0×25.0	個人
素描-44	トノサマバッタ	大正～昭和前期	紙本・彩色	14.5×22.0	個人
素描-45	チョウ, ガ, カブトムシ, トンボ	大正～昭和前期	紙本・鉛筆, 淡彩	22.4×13.5	個人
素描-46	チョウ	大正～昭和前期	紙本・鉛筆, 淡彩	20.3×14.5	個人
素描-47	カエル	大正～昭和前期	紙本・鉛筆, 淡彩	28.5×22.0	個人
素描-48	草花写生画巻(白菊他)	大正～昭和前期	紙本・墨, 彩色・卷子	30.3×1158.0	個人
素描-49	草花写生画巻(白バラ他)	大正～昭和前期	紙本・墨, 彩色・卷子	31.0×1307.0	個人
素描-50	草花写生画巻(葉ゲイトウ他)	大正～昭和前期	紙本・墨, 彩色・卷子	32.5×438.0	個人
素描-51	草花写生画巻(ウツギ他)	大正～昭和前期	紙本・墨, 彩色・卷子	27.5×1042.0	個人
素描-52	ヤブコウジ	昭和3年(1928)	紙本・彩色	26.5×38.5	個人
素描-53	ヤブツバキ	昭和6年(1931)	紙本・彩色	26.8×38.8	個人
素描-54	ガマズミ	昭和16年(1941)	紙本・彩色	30.0×40.9	個人
素描-55	ネコヤナギ	昭和18年(1943)	紙本・彩色	40.5×29.5	個人
素描-56	ミゾソバ	昭和19年(1944)	紙本・彩色	29.8×41.1	個人
素描-57	ケイトウ	昭和前期	紙本・彩色	38.9×26.8	個人
素描-58	ケイトウ	昭和前期	紙本・彩色	38.5×27.0	個人
素描-59	シモクレン	昭和前期	紙本・彩色	29.5×40.4	個人
素描-60	ツバキ	昭和前期	紙本・彩色	30.5×45.5	個人
素描-61	茨城袋田矢祭山画帖より				
	(1) 牛久沼河童松	昭和13年(1938)	紙本・墨, 淡彩	17.0×24.7	個人
	(2) 五浦鉦鼓洞	昭和14年(1939)	紙本・墨, 淡彩	17.0×24.7	個人
	(3) 鉦鼓洞の狂瀾	昭和14年(1939)	紙本・墨, 淡彩	17.0×23.7	個人
	(4) 袋田の滝	昭和12年(1937)	紙本・墨, 淡彩	24.5×17.0	個人
素描-62	袋田清津峡画帖より 袋田の滝	昭和36年(1961)	紙本・墨, 淡彩	57.6×21.5	個人
素描-63	ランギロア ティブタ海岸	昭和50年(1975)	紙本・彩色	19.5×28.5	個人
素描-64	ランギロアにて女二人	昭和50年(1975)	紙本・彩色	28.2×19.2	個人
素描-65	タヒチにて 座る女	昭和50年(1975)	紙本・彩色	28.0×19.5	個人
素描-66	ボラボラにて(花)	昭和50年(1975)	紙本・彩色	19.2×28.5	個人
素描-67	ランギロア海岸の椰子	昭和50年(1975)	紙本・彩色	23.4×33.9	個人
素描-68	モーレア島のバンガロー	昭和50年(1975)	紙本・彩色	19.2×28.2	個人
素描-69	タヒチより見たモーレア島	昭和50年(1975)	紙本・彩色	19.2×28.8	個人
素描-70	パンの実を取る人	昭和50年(1975)	紙本・彩色	28.6×19.0	個人
素描-71	ランギロアの娘	昭和50年(1975)	紙本・彩色	32.5×23.0	個人
素描-72	ライアテアにて(花)	昭和50年(1975)	紙本・彩色	23.2×32.6	個人

再興第 95 回院展 茨城五浦展

- **会期** 平成23年 3月10日(木)～3月27日(日)
※東日本大震災のため11日(金)で中止
- **主催等** 主催：茨城県天心記念五浦美術館
財団法人日本美術院
- **ポスター** B2
- **チラシ** A4
- **図録** 240×250mm 114頁
編集・発行 財団法人日本美術院
- **入場者数** 635人
- **観覧料** 一般600(500)円／高大生400(300)円
小中生200(150)円
※()内は20名以上の団体料金
- **出品点数** 85点
- **内容解説**

明治31(1898)年、岡倉天心を中心として創立された日本美術院は、近代日本画壇の一翼を担ってきた美術団体である。

創立後、一時経営不振に陥った日本美術院は、明治39(1906)年に東京谷中の研究所を茨城県五浦に移し、新しい日本画の創造に邁進した。天心の没後、大正3(1914)年、その精神を受け継いだ横山大観らによって日本美術院が再興されて以来、前田青邨、安田靉彦、小林古径をはじめ、昨年逝去した平山郁夫など数多くの巨匠たちを輩出してきた。

今回の茨城五浦展では、再興第95回院展に出品された作品の中から、福王寺法林、郷倉和子、松尾敏男、那波多目功一ら同人作家や、日本美術院賞、奨励賞、さらに第16回天心記念茨城賞の受賞作等、中堅、新進作家の作品85点を選抜し、再興院展の現況を紹介した。

- **担当** 大平 剛(主任学芸主事)

● 関連イベント

那波多目功一・倉島重友ギャラリートーク

日時 平成23年3月10日(木)
午前9時50分～午前10時45分

場所 展示室A・B・C

那波多目功一サイン会

日時 平成23年3月10日(木)
午前10時50分～午前11時15分

場所 展示室出口

並木秀俊アーティストトーク

日時 平成23年3月13日(日)
午後1時30分～午後3時 ※震災のため中止

倉島重友アーティストトーク

日時 平成23年3月26日(土)
午後1時30分～午後3時 ※震災のため中止

日本画体験実技講座

「盛り上げ彩色で描く 琳派の文様を生かして」

講師 並木秀俊(第16回天心記念茨城賞)

日時 平成23年3月19日(土)～3月20日(日)
(19日)午前9時30分～午後4時30分
(20日)午前10時～午後4時
※震災のため中止

● 関連記事

- ・再興第95回院展茨城五浦展が開幕 精神性高い85点

平成23年 3月11日【茨城新聞】

- ・手軽に行けるカルチャードライブ 近県美術館・博物館だより 第95回院展 茨城五浦展

平成23年 3月11日【両毛新聞】

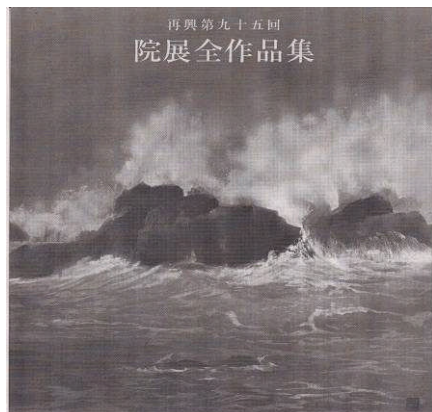
- ・県内初公開85点「再興第95回院展」北茨城で27日まで

平成23年 3月11日【毎日新聞】

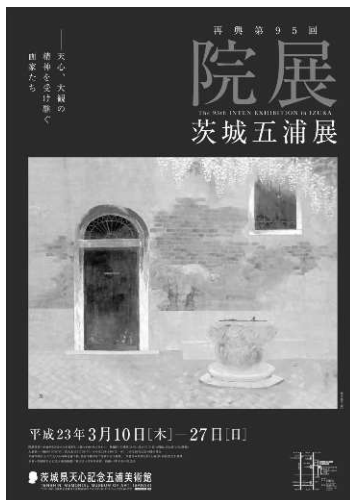
● 関連放送

- ・スクーパーレポート

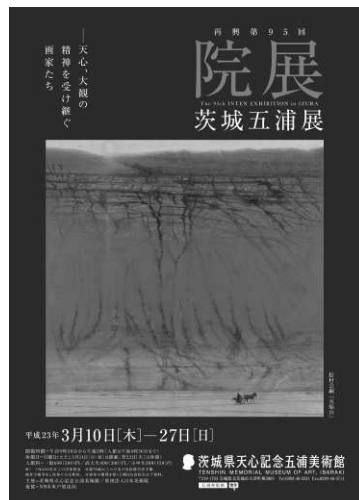
平成23年 3月11日【茨城放送】



図録



ポスター B2



チラシ A4

● 出品作品一覧

No.	作者名	生年	作品名	寸法(縦×横 cm)	受賞
同人(同人推挙順)					
1	福王寺 法林	1920	ヒマラヤの朝	124.0×150.0	
2	郷倉 和子	1914	春に舞ふ	140.0×143.0	
3	松尾 敏男	1926	刻	149.3×182.0	
4	後藤 純男	1930	雪景大和	93.0×184.0	
5	小山 硬	1934	追憶新京(八路軍入城)	145.0×177.0	
6	鎌倉 秀雄	1930	金閣新緑	145.5×97.0	
7	福井 爽人	1937	古城賦	166.0×181.5	
8	伊藤 彰耳	1938	春・ひとときの出会い	170.0×138.5	
9	松本 哲男	1943	華	182.0×182.0	
10	田淵 俊夫	1941	華清池	173.5×141.5	
11	那波多目 功一	1933	燦燦	149.3×182.0	
12	手塚 雄二	1953	奥入瀬飛流	182.0×182.0	
13	福王寺 一彦	1955	月と窓の灯(三)	182.0×182.0	
14	梅原 幸雄	1950	漫ろ	182.0×125.0	
15	清水 達三	1936	那智	182.0×182.0	
16	宮廻 正明	1951	日月観	182.0×182.0	
17	菊川 三織子	1944	花の浮き橋	173.0×123.0	
18	西田 俊英	1953	藤香	182.0×182.0	
19	小谷津 雅美	1933	パンドラの箱Ⅲ(乱舞)	121.0×154.3	
20	松村 公嗣	1948	火焰山	182.0×182.0	
21	大矢 紀	1936	妙見天空	182.0×182.0	
22	高橋 天山	1953	御田植祭り	180.0×180.0	
23	川瀬 磨士	1941	音聲	180.0×180.0	
24	吉村 誠司	1960	祭壇(バリ島にて)	182.0×169.5	内閣総理大臣賞
25	村上 裕二	1964	光のコンチェルト	149.3×182.0	
26	大野 百樹	1920	陽	181.8×181.8	
27	今井 珠泉	1930	颯	131.1×182.0	
28	倉島 重友	1944	土の家	182.0×182.0	文部科学大臣賞
29	清水 由朗	1961	断章	181.7×181.7	
30	齋藤 満栄	1948	音	182.0×182.0	
31	小田野 尚之	1960	映	181.7×181.7	
32	宮北 千織	1967	長かった冬	182.0×162.0	
33	大野 逸男	1941	柳生道	181.5×178.5	
入選作—招待・無鑑査を含む—(五十音順)					
34	朝倉 美彌子	1944	港の夕暮れ	162.0×130.0	
35	荒井 孝	1938	熾	172.0×172.0	
36	井坂 洋一	1956	半夏	167.0×117.0	
37	石村 雅幸	1965	神代桜	172.0×172.0	奨励賞, 無鑑査
38	井手 康人	1962	拈華微笑	172.0×149.5	無鑑査
39	岩永 てるみ	1968	天使のハーモニー	165.0×165.0	
40	大島 婦美枝	1943	緑雨	138.0×170.0	
41	大橋 智	1978	平野にて	172.0×172.0	
42	岡田 眞治	1962	やわらかな午后	169.5×169.5	
43	小田切 恵子	1953	庭	164.0×164.0	
44	鬼塚 堅太	1977	竜舞の滝	162.0×162.0	
45	川瀬 伊人	1973	風声	169.3×169.3	
46	岸野 香	1966	Trip	169.0×169.0	日本美術院賞, 無鑑査
47	北田 克己	1955	月の導者	171.5×154.5	

No.	作者名	生年	作品名	寸法(縦×横 cm)	受賞
48	後藤 順一	1948	山猫	170.0×153.0	
49	齋藤 勝正	1944	破船のある海辺(いわき神代海岸)	153.0×169.0	
50	西藤 哲夫	1952	岩魚	170.0×170.0	無鑑査
51	齋藤 ゆりあ	1982	共和国だより—夏至	167.0×167.0	
52	佐藤 真理	1972	光の籠	167.5×167.5	
53	篠崎 美保子	1931	追懐の雫	165.0×165.0	奨励賞
54	芝 康弘	1970	息を合わせて	172.0×172.0	
55	清水 操	1955	海へ	172.0×140.0	
56	白井 進	1941	雪花	162.0×162.0	
57	鈴木 恵麻	1972	一番星	162.0×162.0	
58	高島 圭史	1976	旅の記憶	169.0×169.0	奨励賞
59	高橋 裕子	1947	遠くからの声	162.0×162.0	
60	武部 雅子	1965	天泣	172.0×172.0	奨励賞
61	辻 紀子	1948	シルエット	168.0×168.0	
62	辻村 和美	1966	家路	162.0×138.0	
63	仲 裕行	1960	月舟	172.0×172.0	
64	中村 譲	1964	午後の残像	172.0×172.0	
65	並木 秀俊	1979	閃爍	162.0×162.0	奨励賞, 第16回天心記念 茨城賞
66	羽子田 長門	1942	大地の人	169.5×169.5	
67	番場 三雄	1953	帰路	170.0×170.0	奨励賞
68	廣田 晴彦	1966	雷天	162.0×162.0	奨励賞
69	福田 喜美子	1983	感涙	172.0×150.6	
70	前田 力	1971	雨ふり	168.0×168.0	奨励賞
71	前原 満夫	1944	冬華	170.0×150.0	
72	牧野 伸英	1967	北口方面	166.0×166.0	奨励賞
73	松尾 喜久子	1947	時空	167.0×167.0	無鑑査
74	松本 高明	1945	山響	171.0×153.0	奨励賞
75	水野 淳子	1980	花と針	168.0×168.0	
76	水見 剛	1970	家路	170.0×170.0	
77	宮澤 芳一	1946	源流域	166.5×166.5	奨励賞
78	村岡 貴美男	1966	曼珠沙華	171.5×171.5	日本美術院賞, 無鑑査
79	山浦 めぐみ	1981	During that time	172.0×172.0	奨励賞
80	山口 貴士	1982	明日の来客	170.0×170.0	
81	山田 伸	1960	驍	172.0×172.0	奨励賞
82	山本 浩之	1970	かげろう	172.0×172.0	
83	吉澤 照子	1929	夕映	118.0×168.0	
84	吉村 幸子	1983	夏の霜	172.0×172.0	初入選
85	王 培	1976	夢郷	161.0×169.0	

特別出品

作者名	生没年	作品名	制作年	寸法(縦×横 cm)	備考
平山郁夫	1930-2009	五浦風景	昭和45年	25.8×36.5	再興第55回院展選集表紙絵
平山郁夫	1930-2009	葡萄唐草文浮彫	昭和55年	26.3×24.2	第35回春の院展全作品集表紙絵
平山郁夫	1930-2009	那智瀧	平成3年	24.0×25.0	再興第76回院展全作品集表紙絵

2 所蔵品展

●概要

茨城県近代美術館所蔵作品から日本画を中心に、その都度テーマを設けて選び出し、展示室Aで所蔵品展として年4回展示を行った。

●主催 茨城県天心記念五浦美術館

●会期及びテーマ、入場者数

会期	テーマ	人数
2/19 (金) - 4/18 (日)	現代日本画家の情熱—天心記念茨城賞の画家を中心に	※3,348
6/4 (金) - 7/4 (日)	海辺の情景—潮騒が聞こえる	8,658
9/3 (金) - 10/11 (月・祝)	風景へのいざない—俯瞰するまなざし	12,859
12/3 (金) - H23/1/23 (日)	煌めく屏風絵の世界	10,742
1/27 (木) - 3/6 (日)	現代日本画へのいざない—再興院展の画家たち	11,862
	合計	47,469

※本展は平成21年度第4回所蔵品展であり、ここでは平成22年4月1日からの入館者を集計しています。

●観覧料

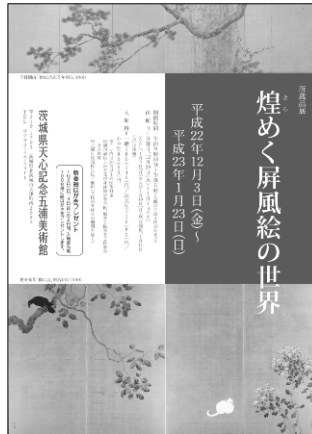
一般 180(140)円／高大生 110(80)円／小中生 80(50)円

※()内は20名以上の団体料金

※満70歳以上の方及び身体障害者手帳、療育手帳等をお持ちの方は無料

※土曜日は高校生以下無料

●所蔵品展チラシ (各A4)



●関連記事

- ・海辺の絵画のみを集めた「海辺の情景—潮騒が聞こえる」を開催
平成22年5月25日【タウンマガジンいわき】
- ・山を街を港を高所から描く 五浦美術館で風景画展
平成22年9月10日【朝日新聞】
- ・手軽に行けるカルチャードライブ 近県美術館・博物館だより 煌めく屏風絵の世界
平成22年12月14日【両毛新聞】
- ・院展作家の24点紹介
平成23年2月7日【茨城新聞】
- ・現代日本画へのいざない
平成23年2月10日【両毛新聞】

●関連放送

- ・「おもしろ美術館」
平成22年6月25日【FMいわき】
- ・「ニュースワイド茨城」
平成22年9月3日【NHK水戸】
- ・「みんなの教育」
平成22年9月11日【茨城放送】
- ・「とれたてワイド」
平成22年12月17日【NHK水戸】
- ・「ニュースワイド茨城」
平成22年12月17日【NHK水戸】

第1回所蔵品展 海辺の情景—潮騒が聞こえる 平成22年6月4日(金)~7月4日(日)

周囲を海に囲まれた我が国は、変化に富んだ地形や四季の移ろいなど、豊かな自然風土に恵まれている。とりわけ、海の茫漠とした様は、人々の心にそこはかとない神秘や大自然への畏怖の念を抱かせるものであった。また、季節や天候の移り変わりにより、水面の色や波の形などの千変万化する自然の妙と美しさは、古くから多くの画家の心を魅了し、様々な絵画表現を生み出してきた。本展では、横山大観、前田青邨、酒井三良、東山魁夷、辻永、小堀進ら近・現代の画家たちが描いた海辺の情景を、日本画、油彩画、水彩画あわせて25点により紹介した。

●出品目録

No	作者名	生没年	作品名	制作年	材質・技法・形状	大きさ(cm)	備考
〈日本画〉							
1	小川 芋銭	1868-1938	海潮音	昭和4~5年頃	絹本・墨画淡彩・軸装	63.6×42.0	篠目篤氏寄贈
2	横山 大観	1868-1958	海上遠雲	昭和11年頃	絹本・彩色・軸装	130.0×42.0	
3	西郷 孤月	1873-1912	怒濤、瀑布	明治33年頃	絹本・彩色・軸装 (対幅)	各116.2×50.3	
4	飛田 周山	1877-1945	森漫	昭和10年	絹本・彩色・額装	92.0×114.0	
5	西山 翠嶂	1879-1958	飛魚	明治末期	絹本・彩色・軸装	66.5×83.4	
6	今村 紫紅	1880-1916	海辺図	明治44年頃	絹本・彩色・軸装	96.3×35.6	
7	近藤 浩一路	1884-1962	房州天津	大正7年	紙本・墨画・卷子	16.5×539.0	
8	前田 青邨	1885-1977	江島詣	昭和10~12年頃	絹本・彩色・軸装	140.0×52.0	
9	門井 掬水	1886-1976	夕浜	昭和15年	紙本・彩色・額装	185.0×226.0	
10	小野 竹喬	1889-1979	海晴	昭和4年頃	紙本・彩色・屏風二曲 一隻	180.0×177.0	
11	児玉 素光	1890-1966	常陸五浦真景図	昭和14年頃	紙本・墨画・卷子	66.0×460.0	竹内清次氏寄贈
12	小茂田 青樹	1891-1933	乙舳帰帆	大正4年	絹本・彩色・軸装	56.5×86.5	
13	酒井 三良	1897-1969	汀	昭和36年	紙本・彩色・額装	103.0×133.0	
14	小林 巢居人	1897-1978	岩	昭和15年	紙本・彩色・屏風二曲 三隻	各177.4×207.4	
15	東山 魁夷	1908-1999	潮音	昭和44年	紙本・彩色・額装	53.7×72.7	寄託
16	大場 清仁	1921-	磯	昭和56年	紙本・彩色・額装	167.0×215.0	作者寄贈
〈油彩画〉							
17	辻 永	1884-1974	須磨の朝	昭和31年	油彩・麻布・額装	72.0×90.0	
18	熊岡 美彦	1889-1944	銚子海岸	昭和16年	油彩・麻布・額装	72.0×90.0	
19	佐竹 徳	1897-1997	三瀬の海	昭和40年	油彩・麻布・額装	73.0×117.0	
20	鈴木 良三	1898-1996	月(唐津)	昭和58年	油彩・麻布・額装	146.0×112.0	
21	田中 良	1923-	北の浜辺	昭和56年	油彩・麻布・額装	130.3×193.9	作者寄贈
〈水彩画〉							
22	春日部 たすく	1903-1985	風花	昭和39年	水彩・麻布・額装	51.0×90.0	作者寄贈
23	互井 開一	1904-1967	漁港	昭和41年	水彩・麻布・額装	55.0×92.0	
24	小堀 進	1904-1975	沖縄の海	昭和42年	水彩・紙・額装	87.0×123.0	
25	酒泉 淳	1910-2006	曇日の海辺	昭和34年	水彩・紙・額装	75.0×106.0	

第2回所蔵品展 風景へのいざない—俯瞰するまなざし 平成22年9月3日(金)~10月11日(月・祝)

画家は出会った美しい景色や自分の心の中にある情景などを、独自の表現技法や画面構成などにより描いている。特に高い所から遠くまで見渡すように描かれた風景画からは、自然の奥行きや広がりを感じることができる。そこには刻々と移りゆく自然や、人々の生活の営み、都市の景観などが画家独自の感性で表現されており、見る人は画家と同じ視線で風景に向かい合っているかのような感覚を味わうことができるであろう。本展では、小川芋銭、横山大観、富田溪仙、福王寺法林、五百城文哉など近現代の日本画家や洋画家によって、俯瞰する視線で描かれた風景画26点を通してその魅力を紹介した。

●出品目録

No	作者名	生没年	作品名	制作年	材質・技法・形状	大きさ(cm)	備考
〈日本画〉							
1	小川 芋銭	1868-1938	浮動する山岳	昭和3年	紙本・墨画・軸装	94.9×120.8	寄託
2	小川 芋銭	1868-1938	若葉と水蒸気	昭和7年頃	絹本・淡彩・軸装	40.0×51.5	
3	小川 芋銭	1868-1938	涼気流	昭和12年	紙本・淡彩・軸装	45.8×65.3	
4	小川 芋銭	1868-1938	早夏人馬之野	昭和12年頃	紙本・淡彩・軸装	44.2×59.0	
5	横山 大観	1868-1958	瀟湘八景〈遠浦雲帆〉	大正2～3年頃	絹本・彩色・軸装	131.0×50.3	No.5～12で八幅対
6	横山 大観	1868-1958	瀟湘八景〈山市晴嵐〉	大正2～3年頃	絹本・彩色・軸装	131.0×50.3	
7	横山 大観	1868-1958	瀟湘八景〈瀟湘夜雨〉	大正2～3年頃	絹本・彩色・軸装	131.0×50.3	
8	横山 大観	1868-1958	瀟湘八景〈烟寺晚鐘〉	大正2～3年頃	絹本・彩色・軸装	131.0×50.3	
9	横山 大観	1868-1958	瀟湘八景〈漁村返照〉	大正2～3年頃	絹本・彩色・軸装	131.0×50.3	
10	横山 大観	1868-1958	瀟湘八景〈平沙落雁〉	大正2～3年頃	絹本・彩色・軸装	131.0×50.3	
11	横山 大観	1868-1958	瀟湘八景〈洞庭秋月〉	大正2～3年頃	絹本・彩色・軸装	131.0×50.3	
12	横山 大観	1868-1958	瀟湘八景〈江天暮雪〉	大正2～3年頃	絹本・彩色・軸装	131.0×50.3	
13	富田 溪仙	1879-1936	長江鵜船	大正8年頃	紙本・淡彩・屏風 六曲一双	各 171.0×361.0	
14	森田 恒友	1881-1933	海辺風景	大正期	布・彩色・屏風 二曲一隻	148.5×178.2	
15	福王寺 法林	1920-	白光のヒマラヤ	平成3年	紙本・彩色・額装	200.0×728.0	作者寄贈
16	那波多目 功一	1933-	翔	昭和48年	紙本・彩色・額装	141.0×74.5	作者寄贈
17	高橋 天山	1953-	清夜	平成11年	紙本・彩色・額装	224.5×179.5	第5回天心記念 茨城賞
〈油彩画〉							
18	五百城 文哉	1863-1906	平潟港	明治33年頃	油彩・麻布・額装	68.0×170.0	寄託(北茨城市教育委員会蔵)
19	栗原 信	1894-1966	リオデジャネロ	昭和33年	油彩・麻布・額装	73.0×100.0	
20	三岸 節子	1905-1999	エッフェル塔	昭和60年	油彩・麻布・額装	110.0×110.0	
21	村山 密	1918-	シャンゼリゼ	平成元年	油彩・麻布・額装	150.0×150.0	作者寄贈
22	西田 亨	1920-	霧水の朝	昭和50年	油彩・麻布・額装	162.0×130.0	
〈水彩画〉							
23	中西 利雄	1900-1948	港の朝	昭和6年	水彩・紙・額装	57.0×76.0	
24	春日部 たすく	1903-1985	ある日の夕映	昭和58年	水彩・麻布・額装	73.0×117.0	
25	互井 開一	1904-1967	夏の石狩平野	昭和41年	水彩・紙・額装	54.0×73.0	互井卓郎氏寄贈
26	三橋 兄弟治	1911-1996	モンテプリオの古城	昭和51年	水彩・紙・額装	107.0×147.5	作者寄贈

第3回所蔵品展 煌めく屏風絵の世界 平成22年12月3日(金)～平成23年1月23日(日)

中国からもたらされた屏風は調度品として用いられる一方、絵画としても日本独自の展開を見せてきた。桃山文化を代表する豪華絢爛な金屏風は、その装飾性が大きいにもはやされ、2枚1組で飾る一双の屏風は、左右で呼応する画面構成やダイナミックに広がる豊かな絵画空間を生み出した。さらに、折り曲げることで生まれる奥行きと動きのある屏風独特の空間は、他の絵画にない大きな魅力となっている。今でも、これら屏風のもつ特徴は日本画家の創作意欲をかき立て、伝統に立脚しながらも西洋の写実主義やモダニズム絵画の影響、そして画家たちの優れた構成力によってこれまでにない多彩で個性的な屏風絵が描かれている。この展覧会では、下村観山、菱田春草ら五浦の作家から、森田曠平、加倉井和夫ら現代の日本画家までの屏風絵作品17点によってその煌めく絵画世界を展観した。

●出品目録

No	作者名	生没年	作品名	制作年	材質・技法・形状	大きさ(cm)	備考
1	下村 観山	1868-1938	老松	大正5年頃	紙本・彩色・屏風六曲一双	各 168.0×370.2	

	作者名	生没年	作品名	制作年	材質・技法・形状	大きさ(cm)	備考
2	菱田 春草	1874-1911	猫に鳥	明治43年	紙本・彩色・屏風二曲一双	各162.0×162.0	
3	木村 武山	1876-1942	鳥骨鶏	昭和8年	絹本・彩色・屏風二曲一隻	170.0×170.0	
4	小杉 未醒	1881-1964	田家訪客	大正10年頃	紙本・彩色・屏風二曲一隻	119.4×112.8	
5	永田 春水	1889-1970	萬年孔雀図	昭和12年頃	絹本・彩色・屏風二曲一双	各171.0×172.0	
6	鴨下 晁湖	1890-1967	踊る	昭和初期	紙本・彩色・屏風二曲一隻	153.0×158.5	寄託
7	長山 はく	1893-1995	罌粟	大正14年	絹本・彩色・屏風二曲一隻	169.0×169.4	関澤賢氏寄贈
8	羽石 光志	1903-1988	閑日	昭和21年	紙本・彩色・屏風観音開	162.6×229.0	寄託
9	杉山 寧	1909-1993	秋意	昭和12年	紙本・彩色・屏風四曲一隻	218.0×302.0	
10	森田 曠平	1916-1994	八丈のめならべ達	昭和34年	紙本・彩色・屏風四曲一隻	175.9×305.7	森田貞子氏寄贈
11	森田 曠平	1916-1994	女神春秋―花鎮め	昭和57年	紙本・彩色・屏風四曲一隻	173.7×364.0	寄託
12	森田 曠平	1916-1994	女神春秋―龍田姫	昭和58年	紙本・彩色・屏風四曲一隻	173.8×364.9	寄託
13	加倉井 和夫	1919-1995	巖松	平成4年	紙本・彩色・屏風二曲一隻	171.5×168.0	寄託
14	加倉井 和夫	1919-1995	篋	平成4年	紙本・彩色・屏風二曲一隻	171.5×168.0	寄託
15	加倉井 和夫	1919-1995	白梅	平成4年	紙本・彩色・屏風二曲一隻	171.5×168.0	寄託
16	佐藤 多持	1919-2004	水芭蕉曼陀羅 白・103	平成元年	紙本・彩色・屏風四曲一隻	163.0×364.0	作者寄贈
17	西村 昭二郎	1927-1999	まひる野・草わたる	昭和36年	紙本・彩色・屏風四曲一双	各152.0×303.0	西村淑子氏寄贈

第4回所蔵品展 現代日本画へのいざない―再興院展の画家たち 平成23年1月27日(木)～3月6日(日)

岡倉天心によって創立され、横山大観らによって再興された日本美術院は、日本を代表する美術団体の一つである。再興されてから今日に至るまで約一世紀にわたり、多くのすぐれた日本画家を輩出し続けている。本展では、平成7年より毎年、茨城県が将来を嘱望される画家の育成を目的に再興院展に提供している天心記念茨城賞の受賞作品をはじめ、昭和50年代以降再興院展で活躍する画家の作品24点を展示した。

●出品目録

No	作者名	生没年	作品名	制作年	材質・技法・形状	大きさ(cm)	備考
1	那波多目 煌星	1905-1989	化身	昭和50年	紙本・彩色・額装	222.0×162.0	作者寄贈
2	高崎 興	1908-1985	浄心	昭和58年	紙本・彩色・額装	227.0×182.0	高崎興一氏寄贈
3	吉田 善彦	1912-2001	浅間月明	昭和53年	紙本・彩色・額装	162.1×130.3	寄託
4	郷倉 和子	1914-	爽春の朝	平成17年	紙本・彩色・屏風四曲一隻	150.0×216.0	作者寄贈
5	森田 曠平	1916-1994	さすらい(森上郎)	昭和63年	紙本・彩色・額装	120.0×80.0	寄託
6	森田 曠平	1916-1994	舞いこ	平成4年	紙本・彩色・額装	73.5×38.5	寄託
7	森田 曠平	1916-1994	飛火野	平成3年	紙本・彩色・額装	91.0×121.3	寄託
8	鎌倉 秀雄	1930-	胡楽想	平成14年	紙本・彩色・屏風観音開	194.0×255.5	作者寄贈
9	那波多目 功一	1933-	廢園	昭和58年	紙本・彩色・額装	160.0×112.0	
10	小谷津 雅美	1933-	終宴	平成10年	紙本・彩色・額装	218.5×173.5	第4回天心記念茨城賞
11	小谷津 雅美	1933-	夏悠悠	平成14年	紙本・彩色・額装	176.3×244.5	作者寄贈
12	川瀬 麿士	1941-	山	平成9年	紙本・彩色・額装	175.0×220.0	第3回天心記念茨城賞
13	菊川 三織子	1944-	花影	平成7年	紙本・彩色・額装	210.0×168.0	第1回天心記念茨城賞
14	倉島 重友	1944-	川風	平成13年	紙本・彩色・額装	215.0×170.0	第7回天心記念茨城賞
15	齋藤 満栄	1948-	秋晨	平成12年	紙本・彩色・額装	170.0×215.0	第6回天心記念茨城賞
16	西田 俊英	1953-	寂光	平成8年	紙本・彩色・額装	218.0×172.0	第2回天心記念茨城賞
17	小田野 尚之	1960-	見送る人	平成14年	紙本・彩色・額装	170.0×215.0	第8回天心記念茨城賞
18	國司 華子	1960-	忘レ物ノ行方	平成17年	紙本・彩色・額装	225.0×180.0	第11回天心記念茨城賞
19	清水 由朗	1961-	望楼	平成20年	紙本・彩色・額装	171.0×364.0	寄託
20	岡田 眞治	1962-	冬のベネチア	平成15年	紙本・彩色・額装	215.0×170.0	第9回天心記念茨城賞

No	作者名	生没年	作品名	制作年	材質・技法・形状	大きさ(cm)	備考
21	井出 康人	1962-	奏園	平成18年	紙本・彩色・額装	221.0×175.5	第12回天心記念茨城賞
22	宮北 千織	1967-	うつろふ	平成16年	紙本・彩色・額装	170.0×215.0	第10回天心記念茨城賞
23	岩永 てるみ	1968-	La vue d'Orsay	平成19年	紙本・彩色・額装	218.0×173.0	第13回天心記念茨城賞
24	川瀬 伊人	1973-	愁思の沼	平成20年	紙本・彩色・額装	211.0×169.5	第14回天心記念茨城賞

3 岡倉天心記念室

●概要 多方面にわたる岡倉天心の生涯や業績を書簡や遺品など貴重な資料によって紹介するほか、天心の指導を受けて近代日本美術の発展に大きく貢献した五浦の作家たちの作品を紹介した。

(1) 五浦の作家たちの作品展示

茨城県近代美術館等が所蔵する横山大観、下村観山、菱田春草、木村武山ら五浦の作家たちの作品を選び、年6回の展示を行った。

●会期及び出品目録

No	作者名	生没年	作品名	制作年	材質・技法・形状	大きさ(cm)	備考
■第1回		4月29日(木・祝)～7月4日(日)					
1	横山 大観	1868-1958	夕立	明治35年	絹本・彩色・軸装	116.0×50.0	
2	横山 大観	1868-1958	水國の夜	明治44年頃	絹本・彩色・軸装	157.0×86.0	
3	下村 観山	1873-1930	高士観瀑	大正8年	絹本・彩色・軸装(対幅)	各142.2×55.3	
4	木村 武山	1876-1942	菅公太宰府配處之図	明治末期	紙本・彩色・軸装	111.0×41.0	
■第2回		7月6日(火)～9月1日(水)					
1	横山 大観	1868-1958	峠の夕	明治36年	絹本・彩色・軸装	40.5×65.5	
2	横山 大観	1868-1958	岩礁の鶴	明治37～38年	絹本・彩色・額装	49.9×87.6	寄託
3	横山 大観	1868-1958	松月雪景	明治37～39年	絹本・彩色・額装	87.5×50.0	寄託
4	下村 観山	1873-1930	帰郷の図	明治37年	絹本・彩色・額装	79.7×48.9	寄託
5	菱田 春草	1874-1911	秋宵	明治末期	絹本・彩色・額装	35.0×86.5	
■第3回		9月2日(木)～10月31日(日)					
1	横山 大観	1868-1958	月明	昭和6年頃	絹本・彩色・軸装	136.6×41.7	
2	横山 大観	1868-1958	月満山	昭和12年	絹本・墨画・軸装	65.4×99.3	
3	菱田 春草	1874-1911	林和靖	明治41年	絹本・彩色・軸装	116.0×50.3	
4	菱田 春草	1874-1911	五浦ノ月	明治42～43年	絹本・彩色・軸装	113.6×50.7	
5	木村 武山	1876-1942	鷺図	大正期	絹本・彩色・軸装	124.0×41.0	寄託
■第4回		11月2日(火)～12月28日(火)					
1	横山 大観	1868-1958	飛泉	明治35年	絹本・彩色・軸装	125.3×41.2	No.3と対幅
2	横山 大観	1868-1958	釈迦	明治40年頃	絹本・彩色・軸装	117.2×50.4	寄託
3	菱田 春草	1874-1911	秋溪	明治35年	絹本・彩色・軸装	125.5×41.3	No.1と対幅
4	菱田 春草	1874-1911	砧	明治38年	絹本・彩色・軸装	49.4×84.1	
5	木村 武山	1876-1942	日本武尊	明治40年頃	絹本・彩色・軸装	124.7×33.7	寄託
■第5回		平成23年1月2日(日)～3月6日(日)					
1	横山 大観	1868-1958	樹下美人	明治45年頃	絹本・彩色・軸装	123.0×51.0	
2	下村 観山	1873-1930	日の出・雪梅	明治41年頃	絹本・彩色・軸装(対幅)	各108.5×41.0	
3	菱田 春草	1874-1911	普賢菩薩	明治35年頃	絹本・彩色・軸装	94.5×49.8	
4	木村 武山	1876-1942	弁財天	大正15年	絹本・彩色・軸装	181.5×85.0	
■第6回		3月8日(火)～5月10日(火)		※東日本大震災のため3月11日(金)で中止			
1	横山 大観	1868-1958	秋の夕	明治35年	絹本・彩色・軸装	122.0×50.8	No.3と対幅
2	横山 大観	1868-1958	葉桜	大正初期	絹本・彩色・軸装	117.0×42.0	
3	菱田 春草	1874-1911	春の朝	明治35年	絹本・彩色・軸装	121.7×50.5	No.1と対幅
4	菱田 春草	1874-1911	春の漁	明治42年頃	絹本・淡彩・軸装	129.3×50.7	寄託
5	木村 武山	1876-1942	義家勿来関	明治40～41年頃	絹本・彩色・軸装	120.3×50.7	寄託

(2) 資料テーマ展示

天心及び五浦に関わりのあるテーマに関して調査・研究した内容を、収蔵資料や解説パネルにより紹介した。

- テーマ名** ブリンクリー『ジャパン』誌と天心の作品解説 II
- 期 間** 平成21年12月25日(木)～平成22年4月28日(水)
- 内 容** 明治30年(1897)から翌年にかけてアメリカで出版された『ジャパン』誌10巻は、当時の日本で活躍していたジャーナリストのブリンクリーにより編集執筆された豪華本で、日本の歴史、文化、風習の詳細な解説を中心に、著名な写真家によるコロタイプ製版写真や、写真に丁寧な手彩色がほどこされた図版などを収載した日本風俗の紹介図鑑とも言えるものであった。そして、毎回このシリーズの最後に、特典のように掲載されていたのが、多色刷り木版画による日本美術の複製画であり、それに添えられた当時東京美術学校の校長を務めていた岡倉天心による解説文である。ブリンクリーと天心との関わりは、この本以外にはほとんど知られていないが、日本の文化、美術をこよなく愛し、当時の報道分野で活躍していたブリンクリーが、天心との知遇がなかったと考える方が不自然だと思われる。
今回のテーマ展示では、当館の資料コレクションの中から、この『ジャパン』誌を紹介するとともに、その中に掲載された天心による解説文を読むことによって、掲載された日本美術の魅力を味わった。
- 展示資料** 『ジャパン』第1巻、第3巻、第9巻

- テーマ名** 早崎稔吉の中国旅行―史跡写真をめぐって―
- 期 間** 平成22年4月29日(木)～11月28日(日)
- 内 容** 当館では早崎稔吉が撮影したガラス原板 289 点を所蔵しており、中国旅行の際に撮影した史跡や風景と見られる写真も 100 点ほど含まれている。中には岡倉天心による明治 26 年の清国出張随同行時の写真もあるが、大半の写真が撮影地、撮影年とも不明となっている。
一方で、近年東京国立博物館が早崎稔吉撮影の写真をも所蔵している情報を得て調査したところ、それらの写真の台紙には早崎自筆と思われる撮影地の書き込みがあり、また台紙に貼付された東京帝室博物館(東京国立博物館の前身)の備品票から博物館に所蔵された年度も明らかになった。これらの写真と当館所蔵のガラス原板を比較することで新たに 17 点の撮影地が判明し、早崎の中国での足跡を裏付けることが可能となった。
ここでは、撮影地が新たに判明した早崎稔吉撮影の中国風景の一部を紹介すると共に、中国滞在中の日記や旅券などを併せて展示して、早崎による中国旅行の実情や様々な苦勞を押しもなお中国美術の調査に情熱を燃やした早崎の業績の一端に触れた。
- 展示資料** 早崎稔吉日記 明治 36 年(1903)
清国外務部「護照(旅券)」明治 39 年(1906)9月 11 日
早崎稔吉撮影ガラス原板より 中国風景写真 5点(パネルに掲載して紹介)

- テーマ名** 早崎稔吉の中国旅行―史跡写真をめぐって―(II)
- 期 間** 平成22年11月30日(火)～平成23年5月10日(火) *東日本大震災のため3月11日(金)で中止
- 内 容** 「早崎稔吉の中国旅行―史跡写真をめぐって―」に同じ
- 展示資料** 早崎稔吉日記 明治 37 年(1904)
早崎稔吉日記 明治 38 年(1905)
清国外務部「護照(旅券)」明治 42 年(1909)5月 12 日
早崎稔吉撮影ガラス原板より 中国風景写真 3点(パネルに掲載して紹介)